

【めむろ未来ミーティング】

令和5年10月22日(日)

13:30～16:45

■参加者 町内在住者 90人
町外在住者 11人
報道機関 5人
計 106人

■芽室町 町長、副町長
政策推進課長、魅力創造課参事
政策推進課参事

- 1 町長挨拶
- 2 経過説明
- 3 質疑応答

テーマ

「新嵐山スカイパークに関する経過説明」

◇町長挨拶要旨

突然の新嵐山スカイパークの休業に際し、多くの町民の皆様、利用者の皆様、そして関係者の皆様にご大変なご心配、ご迷惑をおかけしたことについて町としてお詫び申し上げたい。新嵐山スカイパークの状況、経過、町としての考え方、今後については広報誌に掲載したところだが、非常大きな問題であり関心の高い本件については、それだけで説明責任を果たしたとは言えないため、町民、利用者、関係者の皆様へ直接説明する機会を設けたいとの思いから今日の開催に至った。説明後、質疑応答の時間もあるので、現段階ではお答えできない部分もあるかもしれないが、ご意見はしっかり承りたいと考えているので、忌憚なくご発言いただきたい。

◇経過説明

資料に基づき町長から説明

◇質疑応答

●参加者

今シーズン、スキー場の営業は全くできないのか。それと、議会への補正予算提案が通らなかった場合の他の案はなかったのか。

●町長

今シーズンの営業については端的に申し上げて非常に厳しい状況であることはご理解いただきたい。リフト運行がネックで、索道管理者や、ゲレンデを整理するスタッフの問題、運輸局への申請がどのくらいかかるかなど、不明確な点も多いため、なんとか今シーズンできないかと検討はしたが、非常に厳しい。また、債権整理ということもあり施設への立ち入りも中々できない。何らかの方法でできないのかということは担当にも進めさせているが、厳しいということだけ伝えさせてもらいたい。

もう1点の補正予算提案が通らなかった場合の他の案については、否決を前提に次の策を考えるということはないので、他の案は考えていなかった。

●参加者

スキー場の再開についてはたくさんの方が大変強く望まれている。

めむろ新嵐山株式会社(以下「会社」)は、人件費が経営を圧迫していたのではないかと思うが、経営状況はどのように確認していたのか。

●町長

スキー場の再開については先ほども申し上げたが、なんとか再開したいと考えてはいるが、今シーズンは厳しい状況。次年度まではある程度時間もあるので、何とか再開できる方法はないか模索していきたい。次の担い手がすぐ現れるとは限らないが、それでもスキー場だけでもやれないかなど考えていかなくはならない。懸念しているのは、リフトの認可を取った当時より今の基準は厳しくなっており、リフトの架け替えなど、認可基準を満たすための設備投資が必要になった場合に、どうやってできるかなども考えていかなくはならないと思っている。

経営状況については、町は100%株主ということで、年1回株主総会の時に確認するという状況にな

っている。副町長が社長であり、副町長と担当は随時状況確認している。

●参加者

会社が草刈りしている場面を見かけたが、人が多いと感じた。半分くらいでできるはず。それと、牧場管理もしていたと思うが、今はどうなのか。リフトも1本しか使っていないと思うが、不便だったのではないかな。

●町長

第3セクターの会社の状況についてはもう少し早い判断すべきだったとは思っており、真摯に受け止めたい。コロナもあったが、各事業者それぞれ大変な思いをして一生懸命やられてきており、会社も努力していなかった訳ではないが、結果として累積赤字が発生しているの、判断が遅かったということは申し訳なく思っている。

人件費については会社のことなので言うべきではないが、新嵐山活用計画の中で新たな取り組みをしようということで人員が必要になった部分もあり、働き方改革等もあり、一定の従業員が必要だったのだろうと思うが、人員が多いという指摘は、そういう部分もあるかなとは感じている。

牧場は、以前は会社で業務を受託して行っており、収入もあったが、川北に哺育育成施設を建設し、それを機に夏の放牧事業もJAに委託することになったため会社で行わなくなったものだが、収入としては少なくなってしまう要因でも思っている。

リフトは、第1リフトと第2リフトを動かしているが、経費の問題もあり、1本ずつ動かしたりしているということかと思う。あるいは、お客様がどれくらい来ているかによってどれくらいリフトを動かすかということもあるので、その中での一部休止という状況だったのかと思う。

●参加者

議会の議決があってから、町側の意見に賛同する方と、議会の議決に賛同する方と、町民の考えが二分されている感じになっていて心が痛む状態ではあるが、みんなの心が新嵐山を存続させたいという想いであ

る程度一致しているのは希望の光だと思う。

確認したいのは、説明で金融機関からの借入は非常に難しいという話があったが、先日の新聞報道では、債権者説明会の中で借入金があったとあるが、非常に難しい中で今回は借入ができたということなのか。

また、今年に関しては毎年2回に分けて支払われる町からの委託料を春に受け取ったということだが、春の段階で今期は厳しいということだったのか。

●町長

金融機関からの借入に関しては私から詳細に申し上げられない部分もあるが、報道で出ているので、そういう内容であると思う。説明にあった非常に難しいという部分については、運転資金においても受託期間内である指定管理期間内での返済が求められる中で、会社の存続がわからない状態では新たに借りられず、厳しい状況だったということである。報道にあった数字については、10月10日時点で、その金額の借入金があったというもの。

資金繰りの状況は、私が6月に清算を決断したということにも繋がるが、令和3年度の段階でも大きなマイナスがあったことは認識していて、令和4年度に向けては、認識が甘かったが、お客様も戻りある程度は回復できるだろうと考えていた。そういう期待を込めて令和4年度の決算を見ると、黒字にはなったが、債務は同じような金額で非常に危機感を覚えた。それに加えて、資金繰りが回らないという実態を詳しく聞いて、この状態で指定管理期間内になんとかできるのかと考えた時に、町の責任もあり大変申し訳ないが、第3セクターでは難しいだろうということで、民間を中心とした新たな担い手にお任せしたいと考え、先ほど説明したスケジュールを検討したという流れである。いずれにしても資金繰りも含めて、大変厳しい状況だったことは間違いない。

●参加者

新嵐山のことは議会も町も町民の財産と言っているの、広く言えば町民全体の福利厚生施設であると思う。そう考えた時、第3セクターでうまくいっている会社は聞いたことがないが、それでも町民全体の福利厚生施設である以上、一定程度の経費は行政が負担す

る行政経費を投入する、そういう解釈が成り立つ。今後こういった運営で進めていくのか、また、新たに違う方向性で進めるのか、そもそも論で恐縮だが、このスタンスを明確にさせていただかないと、この先の議論も同じようなことが繰り返されるのではないか。

●町長

私自身のこれからの思いとしてお話しさせてもらいたいが、新嵐山スカイパーク設置条例というのがあり、その中では「町民の憩いの場」そして「観光の振興」という大きな2つの目的が書かれている。町としては両方を満たすようにしていかなければならない。町民の憩いの場というのは、公共性の部分があるので、極論だが赤字であっても町としてお金を出すということがあり得る。一方、観光の振興は、企業性、経済性が求められるので、端的に言うとは儲けを追求していく。この両方の目的を達成するには、第3セクターという位置づけでやっていくことはなかなか難しいと思っている。今後においては、企業性や経済性をしっかり求める民間事業者の皆さんに参入していただいて指定管理を続けていくということを今のところ考えている。ただそれで企業性や経済性だけ追求していくと公共性が失われてしまうので、その公共の部分は一定程度行政側が、町民還元事業や町民にいかん利用していただけるような取組などの役割を担っていくというのがいいかと考えている。

中には場所を売ったり貸したりして民間事業者にやってもらうといいのではという意見もなくはないが、それをすると公共性が全くなくなる可能性もあるので、私としては、財産としては町が持ち続け、公共性と企業性、経済性をそれぞれしっかり担う担い手を構築していきたいという考えを持っていて、その方向で進めていきたい。

●参加者

第3セクターを運営するに当たってもっと数字の分析や、ターゲットを明確にするなど綿密に行ったうえで運営できなかったのかと思う。今後はもっと綿密な運営をしてほしい。

●町長

その点に関しては本当に申し訳なく、早くからしっ

かり経営分析をする必要はあったかと思う。ご理解いただきたいのは、新たな企画などは新嵐山活用計画の中でターゲットもしっかり設定し、利用者の満足度向上のために会社としてもやってもらっていた。仰るように数字などの分析は甘く、そこを町の見通しの甘さと表現させていただいており、非常に申し訳なく思っている。会社で行っていた企画などは好評であったが、経営の基盤は甘かったので、今後については肝に銘じてやっていきたい。

●参加者

以前は町長が会社の社長だったと思うが、いつ変わったのか。

また、先日の議会報告会では議会を非難している方もいたが、会社を運営してスタッフを雇って、今路頭に迷わせているというのは、議会ではなく町に責任があると思う。令和7年に清算するというのを、スタッフは知っていたのか。

あとは希望で、これから委託先を探すことになると思うが、もちろん町の財産であり町民が誇りに思う場所であるということについては変わりなく、黒字化するような手法をとるときに、町民の意見が反映されないということは防ぎたいという願い。

●町長

代表が交代したのは令和3年5月の株主総会。考え方としては委託側と受託側の長が同一人であることを、駄目という訳ではないが是正する目的で交代した。経営に関して何かがあってその状態で変わった訳ではないことをご理解いただきたい。

スタッフに関しては、清算を決断したタイミングではお話ししていない。

最後の点については、議会の皆さんや町民の皆さんの意見を集約して、それに沿った業者選定をしていきたい。

●参加者

今回議会で否決になる前に、議会からこのような運営では難しいのではないかななどの意見はあったのか。突然閉業になったことが非常にショックである。

●町長

議会とのやり取りについては特別委員会の中で、毎回ではないが出席して、町の思いを伝えさせてもらった。特にスキー場等については、休止になったらこういう影響があるというところはお伝えさせていただいた。

スキー利用人口は減っているとはいえ、コロナも5類になり少し戻ってくると思っているので、また整理をして再開できればと思っている。

●参加者

6月の時点で2千万円程の資金が足りないという情報が議会にあった。その後、実は5,200万円足りなくなった。それも令和元年度から不足している分だということ。粉飾決算ではないか。どこから出た数字なのか。また、最近の新聞報道では1億円の負債とのこと。また数字が変わっていて、どれを信用していいのか、嘘ばかりというイメージ。

それと提案だが、スキー場は近隣市町村の方も利用していると思う。芽室町が頑張るってスキー場を存続させるという考えだったと思うが、一つの方法として、クラウドファンディングや、近隣自治体などから支援してもらおうとしないと、運営していくのは難しいのではないかと考えている。

●町長

6月の2千万円の件については、会社の令和5年度予算に関することだと思う。予算の中でその時点で約2千万円赤字になるというものを出した。その時点で非常に厳しい状況であり、実際に収支のバランスを考えた時に、2千万円がないと合わないというものである。

●政策推進課長

町が会社に委託する時に、売上がこのくらいあるだろうと見込みを立てて委託をする。ところが、その売上の見込みに対して実績額が少なかった分を遡って今回5,200万円の支援金として提案したもの。確かに本来でいけば令和元年度の足りなかった分は令和元年度に入れるのが筋だったとは思っているが、見通しの甘さということになってしまうが、コロナが落ち着き、売上が回復することによって町からお金を入れなくてもなんとかなるだろうと判断をしてそ

の時点ではお金を入れなかった。それがここまできて見込み通り売上が回復しなかったため、まとめて今回補正提案させていただいたもの。

●町長

一般論として質問された方の考え方は正しいと思う。本来は同一年度に整理すべきだったと思う。その場合、指定管理の設計変更という形で差額を出していくという形になる。今回の5,200万円は支援金として遡って提案させていただいた。

また、財源の件だが、クラウドファンディングなどは考えたこともあり、これから再開したときに、リフトなど新たな投資が必要になってくる可能性は高いと考えている。そこを町の財源としては補助金やクラウドファンディングなど様々な財源を使って町の負担を少なくしていくことも考えなければならない。利用者負担に転嫁することは簡単だが、それをやってしまうとスキー利用料も大規模なスキー場と同等にしなければならないなど、そういったことにもなりかねないので、町の負担を抑え、その後の負担もできるだけ利用者に転嫁しないような形で進められたらと思っている。

市町村間の負担については難しいと思っている。ただ、芽室町だけの新嵐山スカイパークではなく、十勝の新嵐山スカイパークだという感覚は持っていたいので、管内の皆様がしっかり使用できる施設に整備する責任は芽室町にあると思っている。

●参加者

最近キャンプで利用する機会も増え、これからすごく良くなっていくのだろうと思っていたがこんなことになってしまった。キャンプは人も入っている印象で、イベント時にはキッチンカーなどで賑わっていたと思うが、どの事業が一番赤字だったのか、キャンプは始めたばかりだがどのくらい投資してどのくらいの赤字なのか。

●町長

一般論で言うと、今の新嵐山のスキー場規模で黒字にするのは難しい。もっと大規模でないとペイしないというのは全国的な状況。キャンプなどのグリーンシーズンは色々整備し、土日も含めて非常に賑わ

っていたと思う。そういう面では良い企画をたくさんやってくれたと思っているが、条例で定める上限などもあって、人が多く来ているからお金になっていたかというそうではない部分もあった。

●魅力創造課参事

会社の部門ごとの営業分析に関しては、毎年6月の議会で経営状況の報告という形でお知らせしている。令和4年度の部門ごと収支は、宿舎部門で経常利益がマイナス8,000万円、スキー場部門でプラス200万円、公園・キャンプ場部門でマイナス2,300万円という状況。スキー場部門は、ここ2年程経費の見直しを行い、3年度から黒字化に成功している。ただ、4年度は残念ながら電気料など燃料コストが高騰し、思ったよりプラスに転じなかった。また、キャンプ場については、公園とキャンプ場を合わせているため、収益を生まない公園部門への経費等により残念ながら赤字になっている。キャンプに関しては利用者は多い状況だったが、単価が安いこともあり、利用時にレストランやレンタルなどを利用いただき、そういった収入で稼がないと難しい部分もあると感じている。そういったことから、一番の要因としては宿舎部門であると分析している。

●参加者

資料にある会社収支の表、もう少し前からのデータがあれば提供してほしい。それと、委託料が毎年違うが、赤字補填分も含んでいるのか。

また、宿舎部門がかなり重たい部分だと説明があったが、先ほどの意見でもあったように、町民の福利厚生施設であり、ここまでの赤字であれば補填するなどといった赤字額の限度額のようなものを決めていたのか。

●町長

指定管理者制度のやり方は、指定管理の前の段階で平均収入を見て必要経費を弾き、収入見込みを差し引いた額を指定管理料として支出する。その中でコロナなど事情の変化があり収入が減ると足りない部分が生じる。その部分を設計変更という形で差額を埋めていたため、委託料が毎年変わっている。ベースとしては5,300万円だったが、設計変更によ

て毎年変わっていた。支援金はこれとは別であり、本来は年度で設計変更すべきであったが、遡って5,200万円支援したいということ。

●魅力創造課参事

過去の経常利益は、平成26年度が315万4千円、27年度が604万1千円の赤字、28年度が637万2千円の黒字、29年度が302万1千円の黒字、30年度が134万9千円の黒字という状況で推移していた。

●町長

福利厚生という考えで一定程度お金を出すことはやむを得ない部分はあるが、限度額というのは考えていない。今後は、町として公共的な町民の憩いの場ということに予算立てていき、企業は指定管理の中で管理をして利益を出していくというような役割分担でやっていけたらと思っている。

●参加者

新嵐山は町民にとって大事な場所で、改革によって色々していたのは良かったかもしれないが、公共性の部分が置き去りになっていて、バランスが悪かったのではないかと思っている。それを危惧して色々な意見が出たことを、ただのクレームとして思っていた部分ではなかったか。今このような状況になって、これから皆で考えていくときに、町民が使いたいという部分をしっかり考えていってほしい。宿泊なども大事だが、そうでない町民に向けてのことや社会教育の部分などは税金でしっかりやってほしいと思う。これから冬になるので、スキー場、リフトだけでもなんとかならないかと思っている。また、これから新しい運営になった時には、従業員がそれぞれ得意な面を出していけるような良い職場になればいいと思う。

●町長

町民の使いやすさという点で、お声をしっかり聴いていくということは、これから反省していかなくてはならないことだと思っている。ただ、新たに新嵐山を使っただけの方も増えたと認識しているので、その辺りのバランスをしっかり取って、全体が理解いただける施設の在り方を検討していきたい。

●参加者

現在施設が閉鎖されているが、ハイキングなどの道は維持管理されず、通れなくなるのか。

●町長

山頂に上がっていく道は林道で、農林課でしっかり維持管理していく。散策道などは一定程度町で行わないといけないと考えているので、維持管理はしっかりしていきたい。後は利用される方の声を聴いて、不具合などを把握しながら対応していきたい。

●参加者

現在施設のどの辺が閉鎖されて使えないのか。どこが使えるのか、発信していかないと町民は混乱すると思う。

●魅力創造課参事

今利用できる部分としては展望台までの遊歩道と展望台で、町のホームページでアナウンスしており、今後も広報誌などで周知していきたい。また、立ち入りできない区域は、第一駐車場と第二駐車場を閉鎖している。牧場に関しては、別のところで管理しているので、関係者のみ立ち入りできる状況。

●政策推進課長

広報誌では公表されていないので、来月号の広報誌でわかりやすくお知らせしたい。

●参加者

散策路を利用する際に、新嵐山まで車で行くことになるが、閉鎖されて駐車場が利用できないのであれば、周辺で駐車できる場所はないか。

●町長

これからで申し訳ないが、町で考えていきたい。利用される方との話し合いの場も設けたいと思うし、申し出ていただいてもありがたい。

●参加者

新嵐山には知らないうちに設備が増えている。全員の声を聴いてはキリがないので物をあまり作らない方がいい。

予算についてもシビアに支出すべき。町からいくらでもお金がでると会社が思ってしまう。

●町長

これからの在り方については、どんな機能が必要なのか、いらない機能はないのかなどをゼロベースで皆さんと議論して、その中で必要であれば投資ということも出てくるかもしれない。それは町の予算をつけなくてはいけないし、町の予算をつければ皆さんにお伝えしていくということになる。ご意見をしっかり頭に入れて進めていきたい。町として観光ビジョンというものをこれから作ろうと考えており、町の観光の考え方と、その中で新嵐山の位置づけ、新嵐山でどんなことをしようとしているかなどを含めて検討し、広報等を通じて皆さんにお伝え、説明していきたいと思っている。

●参加者

新嵐山でどんな施設があるのか教えてほしい。

●町長

まずはスキー場、宿泊機能、レストランでは宴会も可能。あとはキャンプ場があって、グランピングサイトやフリーキャンプ場、最近では犬を飼っている方が一緒に泊まれるサイトもできた。ドッグランもあり、大型犬、小型犬で分けて塀を作り、その中で犬に遊んでもらうような施設。パークゴルフ場もあり、施設とは違うが、展望台や夏場は牧場などがある。

●参加者

新嵐山は芽室の一番素晴らしい環境の場所。なんとか残してほしいと思っていたが、このような結果に突然なことは非常にびっくりしている。新嵐山は町民も株主と聞いたことがあるが、株主総会のメンバーに町民は入らないのか。町民の声が反映されていない。高い、美味しくないなど、そういった最近の声は社長に聞こえていたのか。支配人が変わり、宴会に行っても挨拶がない。感謝の気持ちが全然ない。町民の声をしっかり聴いてほしかった。町民が株主総会に参加するには出資が必要なのか。

●町長

突然このような状況になったことはお詫びしたい。町民が株主総会に参加するということとはできない。仮にできるとしてどのように選ぶのかという問題もあり、それよりも通常のサービスについて町民の意

見を聴くことが大事であり、これまでも聞こえてきてはいて、しっかり改善してこなかった責任もあるが、いずれにしても申し訳ないがこういう状況になってしまったため、今後において、しっかりやっていきたい。

自分ごと化会議において、一つ目に「町民に愛される」という言葉が出てきた。そこは私は非常に重く考えており、利用者もいるので町民だけという意味ではないが、町民が愛してくれる、町民が使いやすい、誇りに思ってくれる、そういったところを今一度見直してやっていきたい。

●参加者

ここ何年かの新嵐山は町民の憩いの場からかけはなれていた。コロナもあると思うが、コロナの前からだと思う。キャンプを始めるとなった時に、町民向けではなく、本州などからのお客をターゲットにしたいと聞いてびっくりした。キャンプはあまり利益が上がらないと思うし、宿泊の客が減りおろそかになると感じる。その後、町内会で使えなくなった、バスが迎えにこない、花見もできない、パークゴルフの後に焼肉しようにも焼き肉する場所がない、そういうことになった。今までやっていたことができなくなった。新嵐山を応援する会もなくなった。その後、今まで働いていた人が解雇され、新しい人になった。その辺がわからない。支配人が変わったからなのか。その支配人を教育するのも社長だと思う。社長はその辺を見ていなかったのか。ずっと赤字だったのになぜ早く気づかなかったのか。いつまでも住民の税金を投資することはおかしいということで議会は否決したと思う。どうしてそういう解雇をしたのか、支配人のやり方を見過ごしてきたのか、それと、スキー場の再開も厳しいと言っていたが、1%でも可能性があればやらしてほしい。1年休んだらもう再開できないと人に聞いた。今働いていた人や、前に勤めていた人など、そういった人たちを集めてできないのか。または町職員でできないのか。その辺りを確認したい。

●町長

1点目の解雇の件については、町として雇用や解雇についてのお話しはできないということでご理解いただきたい。2点目のスキー場の件は、パーセンテ

ジは0ではないと思っているので、一生懸命努力している。雇用も含めてどうしたら再開できるかと検討しているが、手続きなど法的なものもあるので、それを曲げてまでは町としてはできない。破産手続きによる債権整理によって1月中旬まで立ち入りできない部分もあり、最大早くリフトを動かさせたとしても2月。そういう面もあって非常に厳しいと申し上げている。その他にも、待合やリフト券売り場をどうするか、除雪や圧雪はどうか、そのための職員はどのくらい必要なのかというのはこの状況になった時から考え始めている。今お話しあったように、資格をお持ちの方などを今の会社からお願いするということはできるかもしれないが、ざっと考えているだけでもたくさんのハードルがあり、それらをすべてクリアしないと再開には至らないという状況。シーズン終わりに再開できれば望ましいが、期待できる状況ではないことをご理解いただきたい。来年度のグリーンシーズンやスキー場については一定程度時間もあるため、場合によっては直営も含めて考えるなど、最大限努力していく。

●参加者

リフトが動かなくても山があるならそり遊びはできるのか。

●町長

それはこれから考えていきたいが、利用できるようにするのであれば駐車場が必要であり、除雪費用はみていないので、するのあれば議会に提案し議決いただかないとできないということになる。それも含めて、今シーズン私たちでできる範囲はどこまでなのかを考えていきたい。

●参加者

解雇した件は答えられないということで、解雇にも理由はあると思うがそれを答えられないという不透明さが不信感を招いている。それと、収入の9割が人件費だったと聞いているが、それも明白に公表していないが、なぜみんなにわかるように公表しないのか。それも不信感に繋がる。

●町長

個別の件は本来お答えできないが、今は社長もいるので答えさせる。ただ、会社は指定管理者という

事業者であることは理解してほしい。指定管理をお願いしている事業者の従業員の雇用や退職、解雇を町としては把握していないし、町としてお答えすることにはならないということ。

●副町長

支配人が変わって新嵐山も変わったとか、様々な意見をいただいているが、社長の私としてもそれは聞こえてきていた。ただ、新嵐山改革の現場での表現の仕方は様々あり、賛否両論あることも十分理解した上で、こういった結果はすべて私の責任である。

会社としては、新たな支配人が来てからというよりも、新たな指定管理期間が始まってから、町として新嵐山の改革をしていきたい、その改革の方針に基づいて受託している会社として、それを表現していきたいということ、様々な改善、改革を進めてきた。その中で、発言にあった解雇という実態はない。それぞれ社員の選択によって退社をされてきたということはあるが、解雇というのは会社都合で辞めていただくということであり、そういった事実は一切ないのでご理解いただきたい。ただ、9月29日には36名の社員全員を解雇した。これは苦渋の決断であり、給与が支払えない、現金がない、そういった状況で苦渋の選択ではあったが、社員皆様にご理解いただいて解雇の道を選ばせていただいた。本当に私としては申し訳ないという気持ちでいっぱい。

様々なご意見はあるが、私たちの会社は町から委託した事業を展開している。町の大きな方針に基づいて現場で様々な表現をしたいと社員一同一生懸命頑張っていたが、人件費が高いという話もある。今の時代、安かろう悪かろうでは人が集まらない。人の手で表現をしていきたいという思いもあり、フィールドも既製品を買ってくるのではなく、手作り新しい魅力を作っていくとやってきた。ご意見ご批判あると思うが、ご理解いただきたい。魅力を作った売上が上がれば人件費の割合が下がるとやってきたが、結果として売上が予想よりも伸びなかったというところは経営責任があると思っている。

●参加者

第3セクターというのは、マイナスがあればどんどん

町が出してくれるのかと勘違いしていた。どんどん金額が増えても何も言わず、結局企業努力はしなくていいのかと思った。普通の企業と一緒に考えてはいけないのかもしれないが、売上が下がって人件費がこれだけあるのであれば、役員が自分の給料下げるなど、努力するはず。でもどんどん人件費は上がっているし、この2、3か月でも新たに従業員が入っているので、その辺りがわからない。新嵐山は景観が良くてよく行くが、色々なところを直して綺麗にしてほしいとホットボイスで出しても、違うところにお金が使われているのか、直らなかった。そういったところにも不信感はあった。議会にしても遊び半分ではなく苦渋の決断だったはず。会社の現金が残りにこれくらいしかないとか厳しい状況だとかは、町もわかっていたと思う。そこをもうちょっと早く考えるべきだったのではないかな。

●町長

累積赤字があることはわかっている、そのほかの状況についても理解はしていた。ただ、コロナで厳しくなった令和3年度の累積赤字を、令和4年度でなんとか上向きようにできないか、収入を増やすことを実践してもらおうと考えていた。私も令和3年度決算の株主納会で経営改善に向けて発言させてもらった。その後、令和4年度決算ではかろうじて黒字になったが累積赤字も変わらないというので、第3セクターを中止しようというきっかけになった。今までの状況はわかっていたが、だんだんとお客さんも増えてきていたため、回復できないかという思いでいたが、資金ショート懸念もあり、指定管理期間での再編は無理だと思い、清算の判断をさせていただいた。

その判断が遅いという点は私も大反省すべきことだと思っているが、皆さんが望まれている存続に向けて今後どうやっていくかを考えていきたい。ご不満、ご批判、ご意見は真摯に受けとめて、これからどうやっていくかということを進めていきたいのでご理解いただきたい。

●参加者

新嵐山はいつ再開できるのか。それが知りたい。

●町長

新たな担い手など相手先もあることなので確実な

ことは申し上げられない。だが、私どもとしては令和7年度からスタートできるようにしたいが、そうするとスキー場ができなくなる恐れがあるので、直営も含めて繋いでいくというやり方を今のところ考えている。

清算を決断した時から並行して次の担い手をどうするかという検討は進めている。現時点では公表できないが、遠くない段階で議会や皆さんに、こういった事業者とこういうことをやっていきたいというようなことを申し上げる時期はくると思っている。

●参加者

破産によって再開まで維持管理できないかと思うが、放っておいたら廃墟になってしまうか心配。再開する場合の経費も莫大になると思うので、早くの再開を望む。

●町長

最低限の維持管理はしていけないといけないので、入れない部分はあるが、周りの環境など、そういった部分は町で予算を組んでやっていかななくてはならないと考えている。

●参加者

スキー場は、スキー学習や子どもたちの練習場所として使われてきた。これからは公共性を大事に考えていってほしい。そういう場があることで子どもたちも思い出も増え、芽室町のことを好きになったり郷土愛が育まれたりすると思う。

●町長

私も郷土愛は大事にしている。子どもたちの思い出にずっと残るような新嵐山にしていかななくてはならないと思っているので頑張っていきたい。

●参加者

料金改定などは提案してこなかったのか。

●町長

料金改定はしていない。これからはそこも議論になるかと思う。色々検証して料金体系を見直さないといけないかもしれないが、利用者の負担増にならないようにすることが公共性だと考えている。

●参加者

3年程前から、経営を変えていこうということで取り組んできていたと思っている。ただ、その中で入っていたテナントや商店が外されて、意見も聞いてもらえないなどの話を聞いている。利用しても今までと違う扱いを受けたという町民が多いと認識している。コロナ禍もあったが、新嵐山から町民の心が離れた。それがどんどん増え町民が行かなくなったと思う。そういった町民の声を聴いて再開に向けていってほしい。

小学校のスキー授業もそうだし、展望台まで登っている人もそう、これから利用できるのかどうなのか、色んな心配事があるって今日これだけ集まってきていると思う。どうかその思いを汲んでもらって、当面の今シーズンの冬、またその後を考えてもらいたい。

●町長

並行して色々協議していかなければならないと思っているが、今シーズン何ができるのかということ、まずはそこを考えていきたい。

●参加者

町長の公約だった新嵐山改革、改革をやってどう感じているのか伺いたい。

●町長

新嵐山活用計画を策定し、事業費もこんなにかけるのかという話もあり、二期目はそれを見直してやっていくという中で、基本的なターゲットや考え方は今のところあまり変わってないが、今度は町として観光ビジョンを作って観光の中のどういう位置付けなのか、拠点として新嵐山はどんな役割をしていくのか、そういう所を考えた上で条例の二つの役割をどうやって果たしていくかということを考えている。これまでの活動、動き全部だめだったというふうには思っていない。新たな顧客も増え、色々なイベントもやるようになった。例えば犬を飼っていらっしゃる方からはドッグランとしては最高だという評価をいただいて、頑張ってきたと思う。ただ、一方では、経営がちゃんと成り立っていないということがあるので、その状況ではそのまま続けることには

ならない。今後やる時も今の機能が全て必要なのかという議論にもなる。もう少しコンパクトにやるのがいいのかもしれない。そういうところをこれから考えていきたい。

反省すべきところはあると思っているが、新嵐山に初めて来たという町民もいた。それはそれで一つの成果だと考えている。反省点はしっかり踏まえて次に活かしたい。

●参加者

良かったと思っているか。

●町長

まったく駄目だったとは思っていない。反省する点はある。

●参加者

質問というより苦言になってしまう。先日の議会報告会で、せっかくなまくいっていた新嵐山の改革を、議員が止めた、議員が悪いというようなことを思っている町民がたくさんいて、それを議員に矛先を向けるような強い口調で意見を言うような町民がたくさんいた。その中には今回新嵐山を解雇された社員の方もいた。また、こういうところでやり玉にあげるのはどうかと思うが SNS で議員に対して意見している方がいる。一人ひとりの行動を町がとめることはできないが、町の職員もせっかくなまくいっていた改革を議会が止めたしまったというような発信をしている方もいる。町自体が議会に対して矛先を向けるようなことをするのは、ガバナンスとしてどうなのかと思っている。町としてその辺のガバナンスをしっかりしてほしい。

●町長

ホットボイスでもお答えしていて、個人の SNS について町長が指導ってことにはなかなかならないが、問題が問題なので対応はしていきたい。

ただ、私は議会と対立などは思っていない。町民の代表である議会の皆様がそういう考え方で否決した。それでいいとは言わないが、そもそもそういう状況を結果的に作ってしまった町の責任でもあると思っている。

●参加者

結果的に今回こうなってしまったが、誰が悪いとかは私は思っていない。議員も町を思って真剣に考えてくれた結果だと思うし、町の職員も未来を思って創ってくれていたと思っている。自分は今まで知らなかったことも多く、知る努力もしていなかった。もっとできることがあったのではないかと思う。これからみんなで未来を創っていこうという中で、この町なら、すごい良くなったねというものを創っていけると思う。

副町長が「自分が悪い」という風に言っていたのが気になっていて、そう言わずにこれからも一緒に力を貸していただけたらと思う。

●参加者

ここ最近の新嵐山のスタッフは対応が良くなかった。お客さんを相手にする商売で一番大事なのは接客だと思う。

●町長

そういうところもあったかと思う。色々な声はあるが、一概に全てのスタッフが対応悪いということではなくて、感謝の声も聞いている。ただ一方で今のお話のような声も聞いているので、次の事業者にもしっかり対応するよう伝えていきたい。

◇町長結びの挨拶要旨

新嵐山スカイパークの再生に向けては、今までの振り返りをしっかり行った上で、最大限努力していきたいと考えている。私の思いとしては、新嵐山を存続していきたいという気持ちに変わりはない。手法や財源、新たな担い手など、整理すべき課題がある。そこをしっかりと整えて、また皆様にご提案やご説明をしていきたいと考えている。また、その際にも色々皆様からご意見をお聞かせいただき、議会、町民と一緒に考えて、なんとか未来の子どもたちのために残せるような財産にしていきたい思い。

今回の未来ミーティングは、色々な議論をさせていただいた。ご批判や厳しい意見もいただきましたが、今後の再生、将来に向けて、町民、利用者、関係者とともに、そして応援もいただきながら前を向いて進んでいきたいと考えている。

16時45分終了

